

## 【政策 2】環境

### 【施策 2 - 1】



#### ごみの減量と再資源化を進めます

主管課：生活環境課

#### ◆現状と課題

ごみの総排出量は、平成 28 年度以降、ほぼ横ばいでの推移となっており、クリーンヒルこもろの稼働により、安定的にごみ処理ができるようになった。しかし、可燃ごみの排出量は年々増加しており、それに伴いごみ処理経費も増加傾向となっている。また、資源物の再資源化は、店頭での回収などを含め定着してきているが、可燃ごみへの混入が見られることから、ごみの分別の徹底と減量に早急に取り組む必要がある。

不法投棄の防止に向けては、定期的なパトロールの実施や監視カメラの設置、啓発などの活動を行っているが、なかなか無くならないため、対策についての早急な検討が必要である。

#### ◆方針（目的）

豊かな自然環境を守り、循環型社会を形成するため、市民、事業者と行政が連携、協力し、食品ロスの削減への取り組みと、3R (Reduce、Reuse、Recycle) の徹底により、ごみの減量と再資源化を積極的に推進する。このことにより、ごみ処理費用の抑制と温室効果ガスの発生抑制に努める。

#### ◆目標

- ①ごみの分別の徹底が市民や事業者に浸透し、再資源化が推進され、ごみの排出量が年々減少している状態。
- ②不法投棄がなくなり、ごみのないきれいな街や、郊外の景観が保たれている状態。
- ③クリーンヒルこもろへのごみの搬入量が減少し、安定的かつ経済的に運営され、周辺への環境負荷が低い状態。

◆目標値

指標名	一人一日当たりごみの排出量（家庭系ごみ、括弧内は事業系ごみを含めた値）					
設定理由	ごみを減らすことにより処理費用の削減と処理時に発生する温室効果ガスの削減につながるから。					
①	目標値	令和元年度(現状値) 595g (803g) ※H30年度数値	令和2年度 594g (800g)	令和3年度 593g (797g)	令和4年度 592g (794g)	令和5年度 591g (791g)
指標名	燃やすごみに含まれる資源物の割合（家庭系ごみ）					
設定理由	ごみをきちんと分別すれば、資源として循環させることができ、ごみ処理経費等の削減につながるから。					
②	目標値	令和元年度(現状値) 28.7%	令和2年度 28.4%	令和3年度 27.6%	令和4年度 26.8%	令和5年度 26.0%
指標名	事業系ごみの年間排出量					
設定理由	ごみを減らすことにより処理費用の削減と処理時に発生する温室効果ガスの削減につながるから。					
③	目標値	令和元年度(現状値) 3,310 t	令和2年度 3,270 t	令和3年度 3,230 t	令和4年度 3,190 t	令和5年度 3,150 t

◆SDGsの推進に向けた取り組み

ゴール 12 「つくる責任つかう責任」

市民への情報提供と啓発により、一人ひとりが毎日の生活の中で、ごみを出さない（リデュース：Reduce）、繰り返し使用する（リユース：Reuse）、資源として再利用する（リサイクル：Recycle）の 3 R の実践により、ごみの減量と循環型社会の実現を図る。

ゴール 13 「気候変動に具体的な対策を」

3 R の実践により、資源やエネルギーの無駄を減らすとともに、ごみの減量を図ることにより、ごみ処理で発生する温室効果ガスの削減に努め、地球温暖化の防止を図る。

ゴール 14 「海の豊かさを守ろう」

海洋へ注ぐ河川の上流の自治体の責任として、河川パトロールや環境学習などを通し、河川の汚染防止と自然環境を保全し、海と海洋資源の保全を図る。

◆主な事業

清掃総務費運営費／収集運搬運営事業／塵芥処理施設管理事業／不法投棄対策事業  
／廃棄物減量リサイクル事業／クリーンヒルこもろ運営事業等

◆個別計画

ごみ処理基本計画／分別収集計画／一般廃棄物処理実施計画

## 【政策 2】環境

### 【施策 2-2】



環境の保全と省エネ政策を推進し、自然環境にやさしいまちづくりを目指します

主管課：生活環境課

関連課：都市計画課

#### ◆現状と課題

地球温暖化の影響とみられる気候変動による異常気象が、世界各地で報告され、国内においても、近年類をみない気象異常が頻発し、小諸市にとっても極めて深刻な脅威となっている。未来を担う世代に、持続可能な社会を引き継ぐためには、市民、事業者、行政それぞれが危機感を共有し、地球温暖化の原因である CO2 の削減に向けた取り組みを行うことが求められている。

そのためには、市民・事業者への情報提供と啓発により、環境に対する意識を高めていく必要がある。また、再生可能エネルギーの推進は、住民の合意形成を図り、今ある自然環境や景観との調和を図る必要がある。

#### ◆方針（目的）

今ある自然景観を守り育て、地球温暖化防止に努めるなど自然環境にやさしいまちづくりを推進する。そのために、市民・事業者・行政が環境に対する意識を高め、それぞれの役割と責任を認識し、省エネルギーの徹底や環境や景観、地域との調和を図りながら、再生可能エネルギーの活用を促進し、CO2 の削減に取り組む。

#### ◆目 標

- ①地球温暖化など、市民の環境に対する意識が高まっている状態。
- ②小諸の美しい景観や豊かな自然環境が保全されている状態。

## ◆目標値

①	指標名	長野県SDGs推進企業登録制度に登録している企業の数				
	設定理由	各企業が、自らの事業活動が地域に及ぼす影響と社会的責任の重要性を認識し、環境に配慮した事業活動を展開することが重要であるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		3団体	15団体	25団体	35団体	45団体
②	指標名	市民が学ぶ環境学習の人数				
	設定理由	環境に対する市民の意識を高めていくには、環境学習を進めることが重要であるから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		481人	500人	1,100人	1,200人	1,300人
③	指標名	環境保全やごみ対策など環境衛生の取り組みに対する市民満足度（市民意識調査）				
	設定理由	市民の満足度が高ければ、環境施策が住民のニーズに沿っている割合が高いから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		76.8%	77.6%	78.4%	79.2%	80.0%

## ◆SDGsの推進に向けた取り組み

## ゴール7 「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」

自然環境や景観との調和を重視しつつ、住民の合意形成を前提に、太陽光発電を中心とする再生可能エネルギーの普及を進めることにより、持続的な二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の削減を図る。

## ゴール13 「気候変動に具体的な対策を」

環境教育の充実や、事業者への長野県SDGs推進企業登録制度等の説明を通し、エネルギー消費の削減や自然環境保全についての啓発、活動支援を行うことにより、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの削減を図る。

## ゴール15 「陸の豊かさを守ろう」

水質検査や大気汚染調査等の結果の情報提供や環境学習などを通し、生物多様性や自然環境の保全を図る。

## ◆主な事業

環境対策費運営費／環境衛生費運営費／環境美化・緑化対策事業

## ◆個別計画

環境基本計画／共に取り組むCO<sub>2</sub>削減計画こもろ（地球温暖化対策地域推進計画）

## 【政策 2】環境

### 【施策 2-3】



#### 市内全域の水洗化を推進し、公共用水域を保全します

主管課：下水道課

#### ◆現状と課題

小諸市内の生活排水処理事業は、7つの処理場はじめ、多くの管路施設と個別浄化槽により運営している。整備状況の指標の「汚水処理人口普及率」は 98.7%、利用状況を表す「快適生活率」は 91.8%と、整備拡大の時代から利用拡大と施設管理の時代に移り変わってきている。今後は、利用密度の低い未整備区域における整備方針の検討と、普及促進の実施により利用人口の拡大を図るとともに、施設管理の効率化を目指した処理区統合計画の推進と、下水道施設を持続可能な設備としていくための点検・調査と更新をサイクルとした計画の運用を軌道に乗せる必要がある。

#### ◆方針（目的）

地理的条件と利用者意向との調整から、未普及地域内の整備方針を見直すとともに、効果的な普及促進活動を模索しながら利用拡大に努め、施設整備の概成と使用料収入の維持・拡大を図る。県単位で取り組む「水循環・資源循環のみち 2015」構想の定期的見直し結果に基づく処理区統合計画を推進し、施設管理計画である「ストックマネジメント計画」の実行と併せて、事業の経営基盤の強化を図る。

#### ◆目標

- ①市内のすべての地域において、生活排水処理サービスを受けられる状態。
- ②生活排水処理サービス未利用者が、サービスの内容を知り、利用に向けた具体的検討ができる状態。
- ③「水循環・資源循環のみち 2015」構想が地域状況を反映して見直しされ、構想に沿った統合計画が実行されている状態。
- ④すべての汚水管路において、停滞なく汚水が流れている状態。

## ◆目標値

①	指標名	快適生活率（県下共通の指標の一つで、計画処理方式による水洗化人口の行政人口に対する割合）				
	設定理由	生活排水処理サービスの利用を促進し、暮らしの快適さ満足度の向上と汚水放流の減少を目指すため。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		91.8%	92.5%	93.0%	93.5%	94.0%
②	指標名	松井川雨水排水路の流下水のBOD値				
	設定理由	生活排水処理サービスの利用状況を二次的に確認するため。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		1.2mg/l	2mg/l以下	2mg/l以下	2mg/l以下	2mg/l以下
③	指標名	下水道・浄化槽などによる水洗化の促進に対する市民満足度（市民意識調査）				
	設定理由	市民の満足度が高ければ、生活排水処理に関する施策が市民ニーズに沿っている割合が高いから。				
	目標値	令和元年度(現状値)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		78.1%	78.4%	78.7%	79.0%	79.4%

## ◆SDGsの推進に向けた取り組み

## ゴール6 「安全な水とトイレを世界中に」

利用環境に関わらず水洗トイレを利用できるよう、状況に応じた適切な排水処理サービスを提供する。

## ゴール14 「海の豊かさを守ろう」

河川放流される排水の削減を図るため生活排水処理サービスの普及に注力し、公共用水域の保全を図る。

## ◆主な事業

公共下水道事業／農業集落排水事業

／浄化槽設置整備事業及び浄化槽維持管理補助事業

## ◆個別計画

流域別下水道整備総合計画／「水循環・資源循環のみち2015」構想

／公共下水道事業計画／社会資本総合整備計画／下水道事業経営戦略

／公共下水道事業ストックマネジメント計画